

株主の皆様へ

株主の皆様にはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

当社は平成15年9月30日をもって、第75期の中間決算を行いましたので、その概況をご報告申し上げます。

営業の概況

当上半期の電子部品市場は、液晶テレビなどのデジタルAV機器を中心として需要が拡大しており、全体として緩やかな回復基調を続けています。一方で、中国への生産シフトが一段と加速するとともに、中国ローカルメーカーの台頭により市場における価格競争が一層激化しました。さらに、期初においてアジア地域を中心に発生したSARS（重症急性呼吸器症候群）の影響もあり、厳しい状態が続いています。

当社におきましては、成長分野への経営資源の集中と徹底した費用の圧縮を進めるとともに、グループ全体でのローコストマニュファクチャリングの構築を通して、事業基盤の強化を進めてまいりました。その結果、売上高につきましては、ハイブリッドモジュール部門の製品を中心に伸長しましたものの、昨年8月に行った電池製造部門の分社化により売上金額の一部が新会社に移り、前年同期比8.0%減の302億19百万円となりました。損益面につきましては、徹底したコスト削減を推進しました結果、営業利益は前年同期に比べ12億94百万円改善し8億93百万円となりましたが、期後半に急激に進んだ円高により採算が悪化し、経常損失11億2百万円、中間純損失は9億6百万円となりました。

以上の状況でございますので、中間配当につきましては、誠に遺憾に存じますが、見送らせていただきたいと存じます。

株主の皆様には誠に申し訳なく、衷心よりお詫び申し上げます。

次に事業別の売上概況についてご報告申し上げます。

[電子事業]

ハイブリッドモジュール部門

液晶ディスプレイ用ハイブリッドモジュールは、液晶テレビの普及やパソコンの需要拡大を背景に、パネルメーカーの中国生産が加速するなか、当社においても生産を中国の子会社に移し、需要増に対応いたしました。プラズマディスプレイ用のハイブリッドモジュールは、本格的なプラズマテレビの普及により大幅に伸長いたしました。その結果、当部門全体では前年同期比5.4%増の132億70百万円となりました。

パワーシステム部門

当部門は、スイッチング電源が本格的な需要回復に至らなかったものの、前年同期を上回りました。また、超小型DC-DCコンバータ「GMシリーズ」や分散給電方式に対応した標準コンバータなどの新製品の戦列化に注力いたしました。その結果、当部門全体では、前年同期比25.2%増の30億11百万円となりました。

回路デバイス部門他

コイルデバイスを中心とする回路デバイス部門は、市場価格の低下が進み、前年同期比17.3%減の12億5百万円となりました。コンポーネント部門は、光通信用部品の需要がやや上向きに転じたことなどから前年同期比57.9%増の13億40百万円となりました。モータ部門は、デジタルカメラ用の小径モータなどが伸長し、前年同期比2.9%増の28億40百万円となりました。電子材料部門は、中国ローカルメーカーの台頭による価格競争激化により売上高が減少し、前年同期比31.6%減の21億59百万円となりました。

以上の状況により電子事業全体の売上高は、前年同期比2.6%増の238億27百万円となりました。

[電池事業]

当事業は、海外製品の流入や価格競争の激化のなか、国内を中心にハイグレードアルカリ乾電池Gシリーズの販売を強化いたしました。しかし、昨年の電池製造部門の分社化に伴い、売上金額の一部を新会社へ移したことなどにより、前年同期に比べ33.7%減の63億92百万円となりました。

今後につきましては、エレクトロニクスの先進分野での製品開発のスピードアップとグローバルでの販売活動の強化により、売上の向上を図ってまいります。さらに、FDKグループを挙げての徹底したコストダウンと生産性のアップを強力に推し進め、早期の業績回復に全力で努力いたします所存でございます。

株主の皆様におかれましては、なにとぞ倍旧のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



平成15年12月
代表取締役社長 **鈴木 惟司**